

# 第1章 調査の概要



## 1. 調査の目的

本調査は、子ども・若者育成支援推進法及び子供・若者育成支援推進大綱に基づき、平成29年度に策定する「小平市子ども・若者計画」の基礎資料とすることを目的として、実施しました。

## 2. 調査設計

### (1) 小平市子ども・若者の意識・実態調査

- ① 調査地域 小平市全域
- ② 調査対象 16歳以上29歳以下の市民 3,000人  
(高校生年代調査(16歳～18歳)、学生・一般調査(18歳～29歳)に分けて実施)  
関係団体(関係者) 119人  
(小平市青少年対策地区委員会代表者協議会、小平市青少年委員会、小平市民生委員児童委員協議会、北多摩北地区保護司会小平分区)
- ③ 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
- ④ 調査方法 郵送による配布、郵送回答(関係団体(関係者)へは、郵送または会議で配付、郵送による回収)
- ⑤ 調査時期 平成28年11月15日(火)～12月5日(月)

### (2) 小平市の教育に関するアンケート調査(小平市教育委員会が実施)

- ① 調査地域 市内全域
- ② 調査対象 小平市立学校に通う小学校6年生、中学校1年生、中学校3年生
- ③ 調査方法 各学校を通じて配付し、学校を通じて回収。
- ④ 調査期間 平成28年10月21日(金)～11月18日(金)

※小平市教育委員会が実施するアンケート調査に設問を追加。

## 3. 調査項目

### (1) 小平市子ども・若者の意識・実態調査

#### ① 高校生年代調査、学生・一般調査

- |                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| ア 基本属性          | キ 携帯電話・スマートフォンの利用について |
| イ 家庭での生活について    | ク 非行的な行為について          |
| ウ 日常生活について      | ケ 地域社会での生活について        |
| エ 学校生活について      | コ 日頃の考え方や意識について       |
| オ 学校・家庭での経験について | サ 将来について              |
| カ 進路・就業・仕事観について | シ 市の取組について            |

## 第1章 調査の概要

### ② 関係団体（関係者）調査

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| ア 所属              | オ 困難を抱えている子どもや家庭と接する機 |
| イ 最近の子ども・若者の状況    | 会の有無・対応した内容           |
| ウ 最近の子育て家庭の状況     | カ 困っている若者の支援について      |
| エ 地域や社会の子どもたちへの影響 |                       |

### (2) 小平市の教育に関するアンケート調査（小平市教育委員会が実施）

#### ① 小学校6年生、中学校1年生、中学校3年生用

- |            |                     |
|------------|---------------------|
| ア 回答者の属性   | オ 先生、友だち、家族との関係について |
| イ 日常生活について | カ 自分自身について          |
| ウ 勉強について   | キ 地域のことについて         |
| エ 学校生活について | ク 中学校生活について         |

## 4. 回収結果

調査対象	標本数	有効回収数	有効回収率
16歳以上29歳以下の市民	3,000	934	31.13 %
内訳： 高校生年代(16歳～18歳)	1,000	370	37.00 %
学生・一般(18歳～29歳)	2,000	564	28.20 %
関係団体（関係者）	119	59	49.58 %
小・中学生	1,165	1,140	97.85 %
内訳： 小学校6年生	618	610	98.71 %
中学校1年生	257	247	96.11 %
中学校3年生	290	283	97.59 %

## 5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。